

令和3年度小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会 結果概要（助言事項等）

令和3年12月20日に開催された令和3年度小笠原諸島世界自然遺産地域科学委員会における管理機関への助言事項等は以下のとおりである。

（1）世界遺産委員会決議への進捗状況について

管理機関より報告のあった世界遺産委員会決議への進捗状況については、科学委員会より了承された。その他、世界遺産委員会決議における要請事項に関する助言事項は以下のとおりである。

【要請事項 a：外来種対策について】

- ・新たな外来種の侵入・拡散防止について、「新たな外来種の侵入・拡散防止に関する WG」の再開も含めて、小笠原諸島全体での取組を検討すること。

（2）各種事業について

①科学委員会下部 WG からの報告に関する助言・意見

各 WG から示された方針、取組状況について、科学委員会より了承された。各 WG からの報告に関する個別の助言事項は以下のとおりである。

<グリーンアノール対策ワーキンググループ>

- ・アノール WG において、これまでの対策手法や技術、その他の知見を整理した上で、今後の戦略の見直し（拠点防衛への転換等）も検討すること。
- ・アノール対策については、管理機関、関係者間で連携して最大限の対策を実施すること。

<陸産貝類保全ワーキンググループ>

- ・WG から提示された方針に基づき、域外保全、野生復帰等の検討・対応を引き続き進めること。

<母島部会>

- ・希少種保護、外来種対策のための拠点施設を母島に置くことは非常に重要。管理機関において検討すること。

<小笠原諸島における在来樹木による森林の修復手法検討会>

- ・オガサワラグワを含む湿性高木林の保全にあたっては、有性生殖の導入、ジーンバンクの確立・維持といった手法の導入も検討しながら、引き続き保全に努めること。

②その他

その他、各種事業への個別の助言事項は以下のとおりである。

- ・母島太陽光施設の計画にあたっては、オガサワラカワラヒワの生息地の消失等につながらないよう配慮しながら検討すること。

以上